

## 講演会 非がん疾患の協働意思決定～神経疾患を例として

令和6年3月6日、医療・介護関係者向け研修会を開催しました！



国際医療福祉大学市川病院 脳神経内科部長/国際医療福祉大学医学部 教授の荻野美恵子先生をお迎えし、非がん疾患の協働意思決定についてお話いただきました。当日は多くの医療・介護関係者のみなさまと一緒に、意思決定、アドバンス・ケア・プランニングについて学びました。会場には50人、後日配信では51の方が参加されました。

質疑応答の一部を紹介します！

Q:呼吸器を付けないと言っていた患者さんが呼吸が苦しくなった時に、自己決定の要件を満たさない状況において呼吸器を付ける意思を見せたときの対応は？

A:荻野先生⇒苦しいから苦し紛れに「つけて」と患者が発言しなうように緩和ケアを進める必要がある。本人と十分に緩和ケアについて意思決定を進める。

参加者のみなさまからは

「本人の意思を基本としながら、チームで考えていくことの重要性を感じました。また“わがまを聞くことが意思決定ではない”という言葉が印象に残りました」「時間の無い中で、患者さんに寄り添い後悔のないACPを行っていく過程がよくわかりました。また受講したいと思いました」等の感想がありました。



座長:松江医療センター 院長 古和久典 先生

医療・介護関係者の皆様にとってACPを考える大変有意義な研修会となったのではないでしょう。この度、荻野先生に教えていただきましたことを、協議会委員一同、今後のACPの取り組みや、普及・啓発活動に生かしていきたいと考えております。